

すべての人に、公正な教育機

会を。

途上国の教育

今日、世界中には学校に通うことができない学齢期の子どもたちが約六千七百万人、文字の読み書きができない十五歳以上の人々は約七億九千六百万人もいます。そうした人々の多くは開発途上国（以下、途上国）で生活しており、そのうちの六割以上が女子・女性である。このように多くの人が基礎的な教育を受ける機会を得ることができずにいる状況を改善するために、長年にわたってさまざまな努力が国際社会のなかで積み上げられてきた。その結果は一様ではなく、この十数年間で目覚ましい成果を上げた国もあれば、いまだに十分な教育機会を提供することができない国もある。とはいえ、基本的にいまだ多くの途上国で、教育分野の開発にさまざまな困難を抱えていることは明らかである。

研究と実務を架橋

専門は比較教育学で、なかでも国際教育開発論を専攻している。途上国の教育のあり方について多様な視点から検討を行う国際教育開発研究は、まだ「若い」学問領域である。すなわち、教育学のなかでも新しい分野であり、いまだ十分な学術的知見が蓄積されていないという点においてである。それは同時に、研究の可能性が非常



Yuto Kitamura

● 1972 年東京生まれ。カリフォルニア大学ロサンゼルス校 Ph.D. 国連教育学文化機関、名古屋大学、上智大学を経て、現職。専門は、比較教育学。

教育の公共性

国際教育開発の研究を進めるなかで、持続可能な社会を実現することの重要性を強く感じるようになった。そのためには、公共性や市民性を備えた人材の育成が不可欠であるという観点から、「持続可能な開発のための教育（ESD）」という新しい教育の考え方に関する研究に取り組んでいる。ESD について考えるようになって、途上国のみならず先進国（とくに日本）における教育のあり方にも研究関心が広がってきた。それぞれの国・社会で異なる文脈を踏まえつつ、すべての人に「公正」な教育機会を保障することの重要性を、教育の公共性の観点から検討している。



カンボジアの小学生たち。近年、多くの途上国で就学率は向上しているが、教育の質に関する問題が山積している。